

令和4年11月8日

阿賀野市議会議長 市川英敏様

産業建設常任委員会委員長 山口功位

### 所管事務調査報告書

本委員会は、令和4年第5回議会定例会において議決を経た、閉会中の所管事務調査を下記のとおり行ったので、会議規則第110条の規定により報告します。

#### 記

- 1 調査事項 水原代官所及びふるさと農業歴史資料館の現状と今後の見通しについて
- 2 調査期日 令和4年11月8日（火） 午前10時00分
- 3 調査経過

令和4年11月8日、田村産業建設部長、大橋商工観光課長並びに担当職員の出席を求めて本委員会を開催し、調査事項について担当課長から説明を受け、現地調査および質疑・意見集約を行いました。

- 4 調査結果

#### 水原代官所

水原代官所は、1746年江戸幕府直轄領として水原城館跡に設置されました。支配地は、現在の阿賀野市をはじめ、新発田市から岩船郡の一部まで及び、石高は6万石から10万石とされています。戊辰戦争によって、代官所の123年の歴史は幕を閉じましたが、当市が江戸時代の要所であったことなども含め、水原代官所の歴史的位置付けと、その存在、役割を感じていただく施設として、127年後の平成7年に復元されました。

入館者数は、白鳥の初飛来する10月と11月に大きく増加する傾向の下、復元当初、多くの阿賀野市民や観光客が訪れていましたが、ここ数年の入館者数は毎月150人前後で推移し、平成31年の年間入館者数は2,764人となっています。

しかし、コロナ禍による休館や行動制限の影響のため、令和2年、令和3年の2年間は3割以上の入館者数減となり、結果、令和3年の年間入館者数は1,779人となりました。また、以前は市民茶会、生け花展等のイベントも開催されていましたが、これらもコロナ禍の影響により未実施の状況が続いています。

一方、教育的位置付けから小学校の社会科見学の間として、継続して活用されていることを申し添えたいです。

施設の説明については、現在、要請があった場合にシルバー人材センター職員が行っていますが、今後は個々での施設見学に対応できるよう、他自治体の類似施設を参考に自動案内等、環境整備を検討するとのことです。

#### **ふるさと農業歴史資料館**

復元された水原代官所に隣接して、阿賀野市の農業の歴史などを見学できる施設として、平成9年6月に開館しましたが、入館者の減少傾向や物販を行っていた代官所販売組合の解散などの状況を踏まえ、令和2年2月1日に資料館及び市中心部におけるにぎわいの創出を目的として、リニューアルオープンしました。

リニューアル後の資料館は、文化ゾーン、観光ゾーン、産業ゾーンの3ゾーンに分け、文化ゾーンは竹久夢二をはじめとした二瓶コレクションや水原山口人形、市所有の絵画の展示公開を、観光ゾーンは白鳥や五頭温泉郷の映像による阿賀野市の観光PRを、産業ゾーンは市内の工芸品や地場産業、特産品の展示を行い、伝承実演体験コーナーではそば打ち体験を実施しています。

入館者数は、水原代官所と同様、10月と11月に入館者が増加する傾向の中、リニューアルオープン時には単月の入館者数が600人を超えましたが、直後の新型コロナウイルス感染症の拡大により休館が余儀なくされたことから、急減となりました。しかし、再開後は毎月250人前後の入館者で推移しています。また、全国旅行支援事業の活用により旅行を含め、日常の生活を取り戻しつつあることから、担当課では、多くの人々が訪れる施設となるよう、市の広報やホームページ、SNSなどで情報発信の強化を図り、入館者の推移を注視するとのことです。

#### **委員会意見**

委員からは次のとおり意見が出されました。

- 水原代官所の歴史的な位置付け、当地域の戦国時代からの流れが不明確でないか。展示説明も再考が必要と思われる。入館者が興味と感心を持つような説明と展示を検討願いたい。
- 将棋、茶会などの開催場所として、一定の評価がある。関係機関、団体への働

きかけ、営業プロモーションが必要である。

- 代官所にふさわしい季節を感じる木々が乏しい。植栽の検討を願いたい。
- 屋外、屋内施設、展示物の更新、修繕を適宜実施し、入館者からの評価が下がらないような対応が肝要である。
- 大型バスで来られる方への対応について、乗降場所や民間駐車場の活用を検討願いたい。合わせて、冬期間、瓢湖から代官所間の歩道除雪を円滑に行うよう要望する。
- ふるさと農業歴史資料館での展示については、愛好家が多く集まる企画も一考ではないかと思われる。企画展示について、検討願いたい。

以上、産業建設常任委員会の所管事務調査の委員長報告といたします。